

# 旧長崎警察署「保存活用を」

## 長崎でシンポ 県庁跡地「地元の声聞いて」

長崎市江戸町の県庁跡地と隣接する旧長崎警察署を巡るシンポジウムが18日、同市内であり、建築専門家と地元住民代表の計4人が保存や活用について意見を交わした。

長崎総合科学大の山田由香里教授(45)は旧長崎警察署を研究調査した結果、1923年の完成当時の構造や外観などが今も状態よくとどまっていたと紹介。「歴史的、景観的なランドマークであり保存活用が強く望まれる」と語った。

県庁跡地の活用に関し、地元の江戸町商店街振興会の三瀬清一朗会長(83)は長崎市が整備を計画する「文化芸術ホール」でなく「2015日、人が集まる施設を造るべき」と強調。「地元の声を聞いてくれない。住民目線の行政をしてほしい」と話した。

会場からは「県庁跡地の発掘調査をすべき」「旧長崎警察署を被爆遺構として残してほしい」などと意見が上がった。

長崎総合科学大長崎平和文化研究所と同大付属図書館が共催。約80人が参加。会場では、イエズス会日本管区長のデ・ルカ・レンゾ氏が県庁跡地とイエズス会の関係を書いた論文が配られた。

(宮本祥太)



県庁跡地と旧長崎警察署について意見を交わしたシンポジウム